



申10号 乗務員とお客さまの生命を守る

水郡線の安全性向上に関する緊急申し入れ

2. 水郡線における危険木の調査結果を明らかにすること。また、調査結果を乗務員に対して明確に周知すること。
3. 危険木と判断した段階で速やかに伐採を行うこと。また8月21日以降今日に至るまでの伐採状況と伐採出来なかった区間について明らかにすること。

(回答) 「沿線近接木の管理マニュアル」等に基づき対応しているところである。

【交渉で明らかになった点】

- ・緊急調査で明らかになった18本の危険木については残りの17本についても伐採を行ってきた。
- ※専門業者による調査・伐採を待っていたが、従来依頼していたパートナー会社に相談した所、伐採のみであったため、可能ということで依頼ができた。(木の状態の把握については専門業者となる)
- ・今後の対応では、専門業者による調査・伐採を行うことと併せてパートナー会社による伐採も行っていく。

組合) 前回の交渉(10/16)で磐城石川～磐城守山間での緊急調査の結果18本の危険木がある事が明らかになったが、更に、11/7には、野木沢～磐城守山で倒木が発生し、線路内に倒れている現状である。今回の近接木は、前回明らかになった18本の内の一つなのか？

会社) 今回の倒木は前回明らかになった18本には含まれていない。当該の近接木はランク付けでは、Bランクであった。見た目は元気な木である。やはり専門業者によるチェックが必要である。

- ・緊急調査で明らかになった危険木については全て伐採を行ってきたが、専門業者による調査は必要である
- ・伐採について、本体以外では、専門業者・パートナー会社による手段で行っていく **確認**

【伐採の優先順位について】

組合) 運転士の目という視点が重要である。勾配のある坂やカーブなど見通しの悪い場所を優先的に伐採するべきである。直線であれば見通しがあり、倒木に気づくことができるが、急に現れたモノについては対応することができない。

会社) 近接木の現状を見て判断をしていくこととなるが、乗務員からの情報も重要である。今、支社内で『伐採ワーキング』が立ち上がっている。現場からの声を集約して、優先順位を決めていくことになる。

【伐採ワーキングとは】

- ・水戸支社内にある会議体であり、『沿線近接木会議』を昇華させたものである。
 - ・開催頻度が増えることで、情報共有の頻度が上がる
 - ・伐採に向けた方針・計画を出していく。
 - ・モビサも入っている中で、乗務員からの声も吸い上げて、会議に反映していく。
 - ※現場からの声の吸い上げ方・周知方については、現場でのコミュニケーションで行う。
- 具体的などころについては、今後ワーキングで検討していく。

現場の声を吸い上げて、伐採に反映していくこと、乗務員へ周知することを確認